

常に新しい活動を模索し、互学互修で成長を促すライセンス委員会！

ライセンス第1委員会 委員長

松田 直大 氏

(所属：貝印株式会社)



interview

自己紹介

刃物総合メーカーにて、技術関連契約を中心に、知的財産全般に関する業務に従事。

“知財はサービス業”という方針の下研究開発、商品企画～上市、広報宣伝活動まで包括的に対応しています。

Q 研究テーマとそれらを選んだ背景・理由は？

私はこれまで、産学連携に関する研究テーマや、知財業務のDXに関する内容を研究してきました。いずれのテーマも、「今、企業の知的財産部がどのように行動すべきか？」という興味が根底にあったうえで、その時々で自分の興味が湧いたテーマを選定していました。

単に「ライセンス委員会」という名前で「契約に関する話だけやっているんでしょ？」と思われた方もいるかもしれませんが、思いのほかそうではなく、他の専門委員会ほど内容が定まっていないこともあり、小委員会内で議論することで、様々な角度で自身の知見が深まっていったように感じます。

Q 委員会の特長／魅力は？

ライセンス第1委員会は、ライセンス第2委員会と一体となって活動しており、定期的に合同で委員会を行っています。そのため、ライセンス委員会全体として存在する様々なテーマについて、委員間での交流を生み、様々なネットワークを作ることが

できる委員会だと感じます。

また、取り組むテーマも、毎年参加メンバーから募集し、その時々で興味があるテーマを広く募ることから、常に新しい内容に取り組むことができる点が魅力だと感じます。

加えて、副委員長として参画いただく方は、これまでライセンス委員会として培ってきた外部とのネットワーク（例えば、特許庁や弁護士会など）を最大限活用し、外部へ発信する機会が得られる委員会でもあります。

Q 委員会としてのこだわりは？

ライセンス委員会としては、他の専門委員会の守備範囲が割と限定されているように感じていることから、他の委員会が取り扱い難いテーマを率先して取り組むことを意識しています。

また、他の専門委員会と似たようなテーマであっても、ライセンスという異なる観点でコラボすることで、議論に深みを持たせられるようにすることを促しています。

専門委員会に参加することで、いわゆる“他流試合”の場を経験することができますが、ライセンス委員会では、さらに広い範囲での“他流試合”を意識してもらうことで、参加メンバーがご自身の成長を実感できるような活動を目指していますので、ご興味を持たれたかたは、是非ライセンス委員会の扉を叩いてみてはいかがでしょうか？

皆様のご参加を心よりお待ちしております！